

十德 利休より古し、紹紗の類

八德 原叟より千家に用ゆ、紹縮緬の類

手巾 緋は原叟、利休茶は啐啄齋、八德著用の節に用ゆ

頭巾 黒縹子モミ裏利休形

足袋 白、薄玉子、淺黄、紺は如心齋好、啐啄齋茶會の節、爐風呂ともに用ゆ

印籠 利休形は金粉雨龍の蒔繪、内金外黒三重

同一閑 啐啄齋好、小高張、内黒外溜の一重なり

提鞆 利休形、紐花色四ツ打、小刀は花切小刀を用ゆ、鞆ゴマ竹節留め、紐付紫草

火打袋 利休形、アツキ皮、紐利休茶、小刀は提鞆同様、節なし杉入底

扇子 利休形十本立、地紙銀スナゴ、片面に胡粉にて菊、片面は墨畫の山水なり、如心齋好は親

ボ子油竹、上に節あり、白紙に布目打なり

香袋 千家隨流齋より所持なり

〔南方録二〕亭主装束之事

肩衣 十德等 僧侶ハ直綴 纒絡等 鼻紙 楊枝 幌巾 紛巾 足袋

衣服を改ル事いふに不及、月額行水等改て、分々の衣服、たとひ麻木綿の龜服にても、程々に改メ有べし、足袋は寒暑に不寄、四季共に用ゆ、鼻紙の間に皮付の楊枝幌巾を入べし、幌巾は白布の手拭也、紛巾は袖に入べし、是紺染の雜巾也、鼻紙の事、休公利休は美濃紙の四ツ折を、入られしと也、楊枝根本文字のごとく、柳の枝よし、楊枝淨木にて、清淨の子細もあり、黒もじにて、けづる事は、古織古田部正の庭に、黒もじの垣有り、又ある時折々、楊枝にし、匂ひも能ゆへに、用と云々、帕初座炭の間は、幌帕を用ゆ、後座茶時紫を用てよし、幌帕にては、爐縁杯も拭ひ、雜巾に用故、茶の時紫に改め